



窓にはドアが設けられている。サイド
近く位置にジョイスティックが設置さ

ABSOLUTE 50 FLY

アブソルート50フライ

デビューから4年にしてリニューアル
最小限の改変によるブラッシュアップ

2016年デビューのアブソルート50フライがリニューアルされた。基本的なスペックに変わりはなく、変更点自体も少ないのだが、わずかな変更だけで、より新しい世代と同じ雰囲気になっている。

文=木曾 昂 写真=アブソルートヨット
text by Subaru Kiso, photos by ABSOLUTE YACHT

現在、アブソルートのラインアップは、ロングレンジクルーザーの「ナベッタ」と、一般的なクルージングセダンの「フライブリッジ」の2シリーズで構成されている。フライブリッジシリーズは、47〜72フィートクラスに7モデルだが、そのうちの6モデルが50フィート以上。昨今のフライブリッジセダンの大型化は、このビルダーにおいても同様だ。

そんなフライブリッジシリーズのなかで、現在、小さいほうから2番目のモデルが50フライである。

50フライは2016年にラインアップに加わったモデルだ。当時のラインアップには、すでに52フライが存在していたため、呼称50フィートのこのモデルの位置づけが微妙なものになると思われたこともあったようだ。しかし、実際のそれら2モデルは、全体の印象も、キャビンの雰囲気も異なるものだったためか、そのまま併売され続け、現在に至っている。

50フライはデビューから丸4年。今回は、一部を改修され、2021年に向けリニューアルされた新しい50フライとして、9月のカンヌ・ヨットフェスティバルでデビューするはずだった。しかし、カンヌ・ヨットフェスティバルが中止されたため、国際的なポートショーにおけるワールドプレミアの機会を失ったモデルの一つとなった。

50フライの改修で、一見してわかるのは、ハルの舷側に設けられた大型の異形舷窓。従来モデルは、縦の支柱が入ったというか、縦長の窓が並んだというか、そういうタイプだったのだが、今回の改修により、それがより新しい世代と同じ、大きな一つの窓に見えるような形態と造作になっている。

この改変によって、ミジップのマスターステートルームと船首のVIPステートルームは、その印象を変えることになった。当然、外観的にも新しい世代のモデ



上:内装の木調部はホワイトオークのような、淡色の素材が選択されている。同色の天井や家具類と相まって、柔らかな印象だ。1枚ものの大型サイドウインドーがこのスペースをより魅力的にしている
下左:マスターステート。舷窓が中間支柱なしのものになったため、オーナーが独占できる風景も変わった
右:フライブリッジのハードトップは、ヘルム付近をカバー。最船尾側には幅一杯のU形ラウンジを設置

ルに近い雰囲気になっている。

また、50フライの新しい標準パワーユニットは、ボルボ・ベンタの新D6シリーズを用いたD6-IPS650(480馬力)の2基掛け。それに対して、従来の50フライは、従来版のIPS600(435馬力)か、その後継のD6-IPS600(440馬力)だったから、出力は20パーセントほどのアップだ。ただ、新シリーズのD6は、トルクやレスポンスの面での改良もなされているため、航走フィーリングは、出力の違い以上に向上しているはずだ。



その上がサンパッドとなっている船首のキャビンラングや、手前のベンチシートの造りは、大型ヨットクラスと同様なもの

キャビンを含む基本造作は、ほとんど変わっていないが、素材の変更などは行われており、さらなる進化が認められる一艇となっている。

S P E C I F I C A T I O N S

ABSOLUTE 50 FLY

- 全長:15.20m ○水線長:11.56m ○全幅:4.41m
- 喫水(プロペラ含む):1.16m ○排水量:22,600kg
- 燃料搭載量:1,600L ○清水搭載量:450L+30L
- エンジン:ボルボ・ベンタ D6-IPS650(480PS/353kW)×2

問い合わせ:

テクノマールインターナショナル
〒336-0965 埼玉県さいたま市緑区間宮607-1
TEL.048-878-6806
<https://www.tecnomare-yachts.co.jp/>

